

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は上値の重い展開が継続か

[5月23日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月16日～5月20日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	129.11	129.78(17)	127.03(19)	127.91	-1.31
ユーロ・ドル	1.0407	1.0607(19)	1.0389(16)	1.0584	+0.0172
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,739.03	+311.38	日本10年債利回り	0.240	-0.006
ダウ平均株価	31,253.13	-943.53	米10年債利回り	2.837	-0.081
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 23日 英5月ライトムーブ住宅価格
独5月ifo景況感指数
- 24日 NZ第1四半期小売売上高
独5月製造業PMI速報値、独5月非製造業PMI速報値
ユーロ圏5月製造業PMI速報値、ユーロ圏5月非製造業PMI速報値
英5月製造業PMI速報値、英5月非製造業PMI速報値
米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値
米4月新築住宅販売件数
- 25日 NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
日本3月景気動向指数改定値
独第1四半期国内総生産(GDP)確報値
米4月耐久財受注速報値
米連邦公開市場委員会(FOMC、5月3～4日分)議事要旨
- 26日 米第1四半期国内総生産(GDP)確報値
カナダ3月小売売上高
米新規失業保険申請件数
米4月中古住宅販売制約指数
- 27日 豪4月小売売上高
独4月小売売上高指数
英5月ネーションワイド住宅価格
米個人消費支出(PCE)デフレータ
米4月個人所得・個人支出
米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】ドル円は3月4日の安値114.65から5月9日の高値131.35まで16円以上もの大幅な上昇を見せてきた。これまでの上昇に対する修正安を見せており、米国をはじめとして各国の株安が続くようならリスク回避のドル買い円買いの動きとなって、ドル円は上値の重い展開になるとした。

【米国株の下げに伴うリスク回避の円高】

小売り大手ウォルマートやターゲットの決算がさえないものとなり、インフレの進行が企業収益に悪影響を及ぼすとの見方が広がっている。18日にNYダウは1163ドル安となり、ナスダックは4.73%安と急落した。19日にもインフレ警戒感から米国株は続落しており、NYダウとS&P500は連日で年初来安値を更新した。

米国株の下げは欧州やアジア株にも波及しており、株安はリスク回避の円買いにつな

がることとなった。ドル円は19日に128円を割り込み、一時127.03近辺まで値を崩した。その後は128円台前半まで戻したものの、再び売りに押されている。米10年債利回りは18日のNY市場で一時3%台を回復したものの、米国株の大幅安を受けて、2.88%台まで低下した。翌19日には一時2.77%台まで低下を見せた。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は17日の講演で、インフレが後退しているとの確証を得られるまで、利上げを継続する姿勢を示した。「経済が想定通りに推移すれば、0.50%利上げを議題に乗せる」と述べたほか、「必要なら中立水準を超える利上げを躊躇しない」とも述べた。FRBの積極利上げの姿勢を追認する内容で、為替市場も一時ドル買いに振れたが、市場は既にかなり織り込んでいたとみられ、大きな動きとはならなかった。

5月23日からの週は、各国の経済指標の動向が注目される。24日にドイツ、ユーロ圏、英国、米国の5月の製造業、非製造業のPMI速報値が発表される。インフレ率の高止まりが各国の景況感に悪影響を及ぼしているかどうか注目される。

住宅関係では、24日に4月の米新築住宅販売件数、26日に4月の米中古住宅販売成約指数の発表がある。住宅ローン金利が上昇傾向にあることで、住宅関連指標は減速傾向にあり、これらの結果がどう出てくるかが注目される。また、26日に今年第1四半期の米国内総生産（GDP）改定値が発表される。

25日（日本時間26日の午前3時）には、5月3～4日開催分の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨が発表される。利上げやバランスシート縮小などに関して、新たな材料やヒントが出てくるかが注目される。また、27日には4月の個人消費支出（PCE）デフレーター、PCEコアデフレーターが発表される。これらのインフレ指標がピークアウトするのか、上昇を続けるのかといった点も注目される。

これまでFRB当局者からは今後数回の会合で、0.50%の利上げに前向きな発言が相次いだ。こうした発言を受けて、今後2回の会合で0.50%ずつの利上げについては、市場のコンセンサスとして織り込まれている。CME FEDウォッチでは、6月のFOMCでの0.50%の利上げ確率は93%前後、7月のFOMCでの0.50%の利上げ確率は86%前後に達している。

米国での高止まりするインフレ率を受けて、FRBは金融引き締めにも積極的な姿勢が継続する見通し。ただ、この動きはかなり織り込まれているとみられる。こうした中、引き締め加速により景気減速が警戒されて米国株が一段と下落すると、リスク回避の円買いに傾きやすくなりそうだ。米国を中心に株価が荒れた展開が続けると見込まれる中、ドル円はリスク回避の円買いの動きから上値の重い展開が続くこととなろう。ドル円の目先の予想レンジは、125.00～130.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、24日に米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値、米4月新築住宅販売件数、25日に日本3月景気動向指数改定値、米4月耐久財受注速報値、米連邦公開市場委員会（FOMC、5月3～4日分）議事要旨、26日に米第1四半期国内総生産（GDP）確報値、米新規失業保険申請件数、米4月中古住宅販売制約指数、27日に米個人消費支出（PCE）デフレーター、米4月個人所得・個人支出、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルはもみ合いながら緩やかに上昇か】

ユーロドルは1.03台半ばまで値を崩した後は上昇に転じており、上下に振幅しながらも一時1.06台に乗せた。19日に4月の欧州中央銀行（ECB）理事会の議事要旨が公表された。インフレの高進を受けて、ECBが7月にも利上げに動くとの観測が高まった。

ただ、FRBによる利上げの動きの方が迅速で大胆であることから、ユーロドルは短期間で大幅に上昇するのは難しいとみられる。このため、ユーロドルはもみ合いながら緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.040

0～1.0700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日に英5月ライトムーブ住宅価格、独5月I F O景況感指数、24日にZ第1四半期小売売上高、独5月製造業PMI速報値、独5月非製造業PMI速報値、ユーロ圏5月製造業PMI速報値、ユーロ圏5月非製造業PMI速報値、英5月製造業PMI速報値、英5月非製造業PMI速報値、25日にNZ準備銀行(RBNZ)政策金利、独第1四半期国内総生産(GDP)確報値、26日にカナダ3月小売売上高、27日に豪4月小売売上高、独4月小売売上高指数、英5月ネーションワイド住宅価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。